

翔陽高校の生徒の皆さんへ 一校長メッセージ（２４）

令和七年度 第二十一回 東京都立翔陽高等学校 入学式式辞

「すべては、一匹のネズミとの出会いから始まった」。皆さん、よくご存じのウォルト・ディズニーの言葉です。まだ名も売れず極めて貧しい暮らしをしていた若きディズニーと一匹のネズミとの出会いが、ミッキーマウスという愛くるしいキャラクターを創り出していきます。それからすべてが始まります。ディズニーは全世界の子どもたちをはじめ、すべての人々を魅了してやまない多くの作品を次から次へと生み出していったのです。

私は「出会い」という言葉が好きです。出会いには、夢と希望が詰まっています。出会いとは、何も人間だけとは限りません。一匹のネズミの場合もあるし、一冊の本、あるいは一曲の歌かもしれません。大切なことは、「出会い」が新しい価値を運んでくることです。自分を変えていく大きな要素を含んでいるのです。本日は、新入生の皆さんと新しく出会えたことに私は大きな喜びを感じています。

ただいま、一九二名の入学を許可いたしました。本日はご多用の中、来賓の皆様を始め、多数の保護者の皆様にご臨席いただき、心よりお礼申し上げます。新入生の皆さん、改めまして入学おめでとうございます。これから本校生徒の一員として、ぜひ大きな志（こころざし）を抱き、夢と希望にあふれる学校生活を送ってほしいと祈念しています。本校は皆さんとの新しい「出会い」に大きな期待を持っています。「出会い」とは、新しい自分の創造だと言っても過言ではありません。人はそれぞれ生まれ育った環境が違いますし、したがって考え方や行動様式が各々（おのおの）異なります。ゆえに人との出会いとは、新たな価値との遭遇でもあります。これはこうあるべきで、こうでなければならない、と思っていた考え方が、新しい価値観との「出会い」によって、なるほどこういう考え方もあるのだ、と選択の幅を広げていくのです。ある人との「出会い」が古い自分を脱皮させ、自分を新しく変えていく。そういう意味からすると、人は「出会い」によって一つ成長するし、「出会い」には自分を高めることができるチャンスがあふれています。

本校は、平成十七年（二〇〇五年）に普通科全日制、単位制高等学校として開校し、「自学・自立・自信」をモットーに、探究的な学び・キャリア教育・国際理解教育・豊かな人間性の育成に重点を置いた教育活動を展開し、探究学習の実践を通して、国際社会で活躍できる、創造性や対人能力を身に付けた生徒を育成することをスクール・ミッションとして掲げています。本校は今年度、東京都教育委員会より「進学指導研究校」、「GE-NET EE 英語教育研究推進校」、「海外学校間交流推進校」等の指定を受けています。また、生徒一人1台端末の活用を含めICTの有効活用を進めるなど、特色ある教育課程のもと、基礎学力の定着とともに学力の伸長を図り、生徒の進路希望の実現に全力で取り組んでいる学校です。広い校地と恵まれた施設や自然環境を活かし、部活動や学校行事が盛んで元気あふれる生徒の笑顔が美しい、今年度創立二十一年目を迎える学校です。

さて、近年アメリカの教育界やビジネス、スポーツ分野において、GRITと呼ばれる力が注目されています。日本語では「やり抜く力」と訳されていますが、目標に対してひたむきに取り組み、挫折や困難を味わっても諦めずに努力し続ける、「情熱」と「粘り強さ」のことを言います。そして、人生で成功を決める究極の能力は、才能でも学校の成績でもなく、この「やり抜く力」だということが科学的に突き止められたのです。どうやったら、この「やり抜く力」を伸ばすことができるのか。アンジェラ・ダックワースさんの著書『やり抜く力 GRIT — 人生のあらゆる成功を決める「究極の能力」を身に付ける』から、その一部を紹介します。

一つは自分自身の内側から伸ばす方法です。興味や関心を掘り下げ、高い目標を設定し、それに向かう練習を習慣化すること。今取り組んでいることが大きな目標につながっていると自覚すること。そして絶望的な状況にあっても希望を持ち続けるということです。もう一つ、外側から「やり抜く力」を伸ばすこともできます。それは先生や先輩、友人など周りの人々が重要な役割を果たすというもので、これこそが学校教育の本質です。一人だと諦めてしまうことも、集団であれば切磋琢磨し、もがきながら努力を続けることで進歩につながり、それによって自信が湧き、もっと大きなことに挑戦しようという好循環が生まれます。

まとめるとこうなります。

- 1 「やり抜く力」をつけるには、一步ずつでも前に進むこと。
- 2 「やり抜く力」をつけるには、興味ある目標に粘り強く取り組むこと。
- 3 「やり抜く力」をつけるには、積み重ねが大事な学習や厳しい練習を毎日続けること。
- 4 「やり抜く力」をつけるには、七回転んだら八回起き上がること。

本日、高校生活のスタートラインに立った新入生の皆さんが、失敗と挑戦を繰り返しながら、「やり抜く力」を身に付けて、三年後、この学び舎から大きく羽ばたいていくことを期待しています。私は、翔陽高校の新入生である皆さんが「やり抜く力」を発揮して巻き起こす新しい風に期待しています。そのために皆さんには、私が三月の入学説明会でお話した翔陽生に求める三つのこと、つまり「品格を持つこと」、「高い志（こころざし）を持つこと」、「授業を大切にすること」を是非実践してください。

ここで、皆さんにメッセージを贈ります。それは、「友情は喜びを二倍にし、悲しみを半分にする」というドイツの詩人であり劇作家だったシラーの言葉です。これは何も若者だけではなく、すべての人の共通の思いです。共に喜びを分かち合い、共に悲しみを分かち合う友人を持つことは、人間にとって最大の宝を手にとったことになり、生きがいそのものにもなるでしょう。ちょっとしたきっかけが、深い愛情のきずなにつながっていく。友情とはその瞬間が咲かせる花とも言えるでしょう。そして時間が実らせる果実でもあります。大切に育てていかなければならない植物なのです。その果実が美しく、かつ栄養分に富む美味しい果実であり得るかどうかは、私たちの努力にかかっています。私も高校時代に会った友人と今でも交流を続けています。私自身、友情を通して少しでも人間的に成長したいと今も考えています。皆さんが今日から始まる高校生活の中で「出会う」友人と切磋琢磨しながら、先ほどお話しした「やり抜く力」を一緒になって身に付けてほしいと願っています。

最後になりましたが、保護者の皆様一言ご挨拶申し上げます。本日はお子様のご入学、誠にありがとうございます。高校の三年間は、これからの人生の方向を決定する大切な時期であります。思春期の只中にいて、悩み苦しむ時期でもあります。私たち教職員は、お子様が自ら進むべき道を自分の力で切り拓いていけるよう、全力を尽くして支援してまいります。今の社会は子どもたちが自分で考え、判断し、失敗や成功を経験するチャンス奪い過ぎていると感じることもあります。高校時代の挫折や失敗は取り返しのつかないことではなく、未来への蓄えだと考え、学校と家庭がそれぞれの役割を果たしながら、相互に信頼し連携しながら、子どもたちの豊かな個性を伸ばしていきたいと考えています。私たち教職員一同、皆様からお寄せいただいた大きな期待をしっかりと受け止め、新入生の皆さんの成長と大きな志の実現のために一丸となって尽力することをここにお誓い申し上げ、新入生歓迎の式辞といたします。

令和七年四月八日

東京都立翔陽高等学校長 博田 英明